



オリーブニュース

北海道特別教区女性の会（オリーブの会）第12期 第5号

代表 近藤雅子 2014年10月10日発行

2年任期の最後の年、是非、各地の方々と、顔と顔を合わせて話してお伝えしたい、お聞きしたいと函館訪問と道東訪問・昆布の厚岸訪問を実現しました・・・・・・・・・・
普段会えないもどかしさを抜けて、一緒に礼拝を守る喜び、それぞれの地で主を証しする働きに出会う喜びに溢れました・・・・・・・・・・

函館教会を訪問して

チャイルドファンドジャパン委員：松島 直子（札幌）

函館の街を歩いていて目にとまったものは、住宅街にひっそりと散在する小さなパン屋、菓子屋、金物屋など。昔からの街の息遣い、1つ1つのお店を大切にする函館人の心意気を感じながら、8月17日の朝、私は五稜郭にある教会へ向かいました。

教会員の活気ある雰囲気と、若い学生さんたちの集った華やかな礼拝堂でのその日の説教は、「すばらしい宝」。天の国は、畑に隠された宝を見つけた時、全財産をなげうって宝を買うほどのもの、という御言葉。坂本先生は“いやいや、そんなことできる人なんていないじゃない！”と私の心のつぶやきを代弁しながら説教を続けます。“しかし”と。あのパウロはそうであった。教養も地位も財産もあったパウロが、イエスの愛に出会ってから、自分のもちもの全てを捨てたと。私の心の中に、“しかし”という言葉の余韻がいつまでも響いていました。

礼拝後はCFJのアピールをさせていただきました。学生さんにも伝えたい、最新のチャイルドの情報も！とあふれる思いのあまり、まとまりのないPRとなりましたが、熱心にきいていただき、野の花の会例会では写真と手紙を手にとってもらいました。皆でエライサちゃんの優秀さに感銘を受け、自筆の美しい文字に驚き、“えらい、エライサ”と覚えればいいわね、と笑顔のある分かち合いです。お互いのお顔を見る、目を見て話すことで、チャイルドと一緒に支えている”ハート“を感じました。また皆さんの信仰生活について伺い、その姿勢は、街でみた凜としたお店のたたずまいに重なってみえたのでした。

いやいや神様、とってしまうことが多い私。“しかし”と。この大地でできることから始めようではないか、交わりから力を得て出かけようではないか、そんなことを同じ北海道の地に住む姉妹たちから教えられ、函館教会から再び外へ送りだされました。

=今年は昆布研究の年!! と張り切って道東訪問に出掛けました=

講壇交換で釧路・帯広・池田で説教奉仕の坂本千歳牧師に同行して、札幌から近藤代表と大賀書記も道東訪問。昆布の産地厚岸も訪問してきました。

その成果を<昆布の紹介とレシंप集>としてまとめ、昆布と一緒にお届けしました。

羅臼・利尻・茅部・日高・そして釧路根室地方という一大昆布生産地に住んでいる北海道人の私たち。

なのに、本州の方々にいろいろ尋ねられても、えーっわかりませ

んと、なにか頼りない私たち。

これではならじと奮起して、産地を見学、そして突撃インタビューも

してきました。お役に立ったでしょうか？



昆布の干場です

そして勿論、道東＝釧路と帯広教会も訪問し、主日礼拝を共にしてきました。

この日の聖書の箇所は、マタイによる福音書14章13～21節「五つのパンと2匹の魚」のところ、

坂本牧師はここは4福音書共通に記載されているただ一つの奇跡物語で、イエスさまの生き方が、そしてイエスさまが私たちに期待されていることが書かれています、渦巻く自分の思いから解放されて、イエスさまの言葉に委ねて行く時、奇跡は起こると伝えて下さいました。

正に私たちにぴったりのメッセージ、総会資料に掲載していますのでじっくりお読みください。

太平洋が広がる釧路・厚岸地方はまた夏は霧が出るところ、晴れていたのに突然霧におおわれ

視界ゼロとなり行く手が不安になります。加納牧師は毎週こんな思いをされながら帯広から釧路へ



そして池田の三つの教会にみことばを届けるために万全の用意をされているのですね。釧路はかつては鮭鱒等の一大漁業基地、炭鉱、製紙工場などで栄えましたが、今は打って変わって各企業の支店も引き揚げられ駅前には出張者を想定したビジネスホテルと空き地ばかり。釧路町などの市周辺に面としての広がりはあるのですが、中心部は人通りも少なくなっていました。

一方帯広は十勝晴れ、やはりビジネスホテルが駅周辺に林立、観光客の姿も目立ちます。釧路と同じく市周辺部が広がって、中心への求心力が無くなっていたのを何とか復活したいと試みているのが感じられました。二つの街は今が

変わり目。さまざまな試みがなされているのも目にしました。

一同いろんな思いの中で教会訪問。礼拝後には、皆様がご用意くださったおいしい昼食に話も弾み、うっかり写真を撮って来るのを忘れるほど。皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

昆布会計を生かして、さまざまな働きに献金しています。



8月のこどもキャンプ、女性会連盟へ、ルーテル学院大・神学校後援会へ、去年は教区一日神学校にも献金しました。また、女性の会の運営費や女性達の交流費用にも大活用。お支え下さる全国の皆さんにいつも感謝でいっぱいです。今年も札幌北礼拝堂に男性も女性も信徒も牧師も集まって、9月10日、10月8日と2回、昆布パック作業をしました。毎回30人余集まったの作業は、皆さん手慣れて素晴らしい運び。お役にたてる喜びに溢れているからでしょ

うね。(MO記)



フィンランドを訪問して、ソベリ先生にお目に掛かりました

代表：近藤雅子

まだ春浅い4月25日、私は初めてフィンランドの地に降り立ちました。

上空から見る景色もまさに森と湖の国そのもので、その地形は大昔、氷河に削られたことによるものですが、自然の壮大さと同時に私の脳裏にはシベリウスの様々なメロディーが駆け巡りました。あのようなメロディーはまさにこの景色から生まれたのだと・・・。

今回、私がフィンランドのソベリ先生がお住まいになっておられるクオピオという町に行ったのは、ソベリ先生とのお話合いでオルガンのコンサートをさせていただくことになったからです。

空港まで迎えに来てくださるというソベリ先生からは“世界一、素敵な空港よ！”と言われ、わくわくしながらヘルシンキから約一時間のクオピオ空港に到着しますと、空港の真正面が光り輝く湖なのです。先生がおっしゃったことが本当に納得できました。

町までの道のりでも多くの湖が見られます。日本のように景色を遮る看板なども無いので、自分たちが自然の中で抱かれているような感覚です。ソベリ先生のアパートに着いてから、まず、先生のお散歩コースを案内していただきました。10分ぐらいの距離で異なる二つの湖を周ることができます。先生は「湖は海と違って波立たないので静かでのいいのよ」とおっしゃいました。確かに鳥のさえずりと風がさらさらとそよぐ音しか聞こえません。

余計な雑音が一切ないので静寂さを感じ、心の洗濯ができるような心地でした。

さて、先生が通われているクオピオ大聖堂は少し高台にあるので、町のどこからでも見つけることが出来ます。中に入ると十字架のように三方向に空間が広がっていました。

フィンランドは泥炭やバイオを燃料源とし、温熱のパイプがすべてのアパートなどの住宅、公共施設に引かれているので、真冬でも教会も23度ぐらいに保たれているとのことでした。オルガンはデンマーク製で三段の鍵盤と54の音色がありました。

町には音楽大学があり、そのオルガン科の学生が練習やレッスンで使うので、コンサートの為の私に与えられた練習時間は3日間2時間ずつのみ。オルガンという楽器はそれぞれ違うので、そ

の楽器に応じて音色等を考えなければなりません。今回の私のプログラムが古典から近代までと幅広い曲目にしたこともあり、初日は音の設定のみで終わってしまいました。

今回、一週間あまりをソベリ先生のお宅に滞在させていただいたのですが、先生がお料理をされている時などは「私を楽しませてちょうだい」ということで、先生がお持ちの楽譜から物色しピアノを弾いて過ごしました。その中にはソベリ先生のお父様が作られた曲もありました。ピアノが大好きだったソベリ先生のお父様は自分の作曲した曲をよく娘たちに聴かせてくれ、幼い頃のソベリ先生はその曲に合わせて踊ったりしていたそうです。

5月1日、その日は私のコンサートと日本とフィンランドで親しまれている讃美歌を歌い、4年前の東日本大震災についてなどをお話する会となりました。

私の演奏は自分としては多少悔いも残りましたが、来られた方々からは暖かい拍手と称賛をいただき、ソベリ先生も涙を流して喜んでくださいました。

日本で歌われている讃美歌として“やすかれわが心よ”（教会讃美歌337番）を、日本語の歌詞をソベリ先生がフィンランド語に訳してくださり、歌いました。

この曲はもちろんフィンランドが生んだシベリウスが作曲した“フィンランディア”ですが、讃美歌として歌うことはないということでした。しかし、ソベリ先生が日本語の歌詞をフィンランド語に訳してくださったことで、「日本ではこのような素晴らしい歌詞で歌われているのですね！」と皆、感激し、「これから私たちもこの歌詞でこの曲を歌っていきます。あなたは素晴らしい歌のお土産も持ってきてくれたのね！」と言われました。

また自分たちが想像を絶する被害に見舞われた被災地についても真剣に耳を傾け、皆でお祈りをささげてくださいました。

フィンランド人のキャラクターとして一般的には内向的といわれるそうです。

それは静かに湖面に水をたたえる多くの湖と豊かな自然のささやきを聞く日常から来ているのかもしれない。

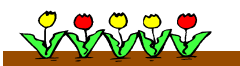
あの素晴らしい景色とともに、私の人生にとってかけがえのない財産をいただきました。

スオミ、そこはきっと森の木々の陰からムーミン達が手招きして呼んでいるかもしれません。

=NOTE=

ビリピ・ソベリ先生は1982年から2010年まで、フィンランドの宣教団体 LEAF から日本福音ルーテル教会に派遣されて、札幌、新札幌、恵み野、函館と道内の教会を宣教師として、後に牧師として牧会して下さいました。

また、教区女性の会の担当牧師として、また女性会連盟の1999年サバ神学校訪問時のチャプレンなど、私たちを支えて下さいました。フィンランドに帰られてからも変わらず祈りさせて下さっています。



これからの予定

11月11日(火) 10~16時 第13回教区女性の会総会 於：札幌教会ルーテル会館

各会からの正議員登録が進んでいます。正議員以外のご参加も呼びかけています。

総会では ①規約改正＝役員任期を3年、総会開催3年に一度、11月開催

会計年度は9月から8月まで。役員は会長・書記・会計の3役。
総会正議員は女性の会会員です。休会女性の会からの個人入会者は
準議員となります。

②内規として慶弔規程と旅費規程を置くこと。

③第13期の役員選出～各会から役員候補の推薦を受けています。

④活動案と予算、その他  審議・協議を行います。

編集後記:.....:

「キリストの福音が正しく宣べ伝えられるために、共に働く者を増し加えて下さい。

み名を信じる者の心が整えられ、互いに支え合い、仕える者となり、あなたの愛を証しする群れと
なりますように導いて下さい。」 2013年度神学校の夕べに祈られた祈りが心に残ります。